

Sustainability Report

2023

デンソーテングループ
サステナビリティ報告書



企業理念・企業行動宣言(サステナビリティ方針)

企業理念とサステナビリティ方針を掲載しています。

P.3

トップメッセージ

「クルマの価値向上」「生活の価値向上」「カーボンニュートラル」実現をめざし、社会課題の解決に貢献します

米本社長からのメッセージをお伝えします。



P.4

デンソーテックグループのサステナビリティ経営

サステナビリティ経営の全体図を掲載しています。

P.5

2030年ビジョン VISION2030

デンソーテックグループが長期的にめざす姿を紹介しています。

P.6

特集 – VISION2030の実現に向けた取り組み

2022年度の「クルマの価値向上」「生活の価値向上」の取り組みを、開発者の声と共にお届けします。

クルマ

ドライブレコーダーの映像から高性能・高速エッジAIが危険なシーンをリアルタイムに検出



P.7

クルマ

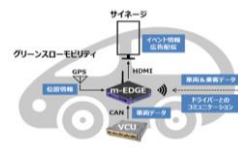
車の接近や曲がる方向をシートの振動で知らせて安心・安全に貢献



P.9

生活

移動をもっと安心・安全・快適に。グリーンスローモビリティを活用した実証実験に参加



P.10

事業領域と主な製品

事業領域ごとの主な製品を紹介しています。

P.12

デンソーテックグループのCSR

デンソーテックグループのCSR重点課題／推進体制／SDGsへの対応／2022年度の主な活動と関連するSDGs

P.13

CSR重点課題の取り組み

消費者課題

品質・製品安全の追求／品質意識の向上・人材育成／アフターサービス対応／製品セキュリティ

P.15

【TOPICS】製品・サービスにおけるサイバーセキュリティ、プライバシー対応の確立

環境

第9次環境行動計画の目標と実績／カーボンニュートラルの推進

P.17

【TOPICS】デンソーテン無錫が中国江蘇省グリーン工場認定取得



人権・労働慣行

人権の尊重／多様性の受容／ワークライフバランスの推進／女性の活躍推進／人材育成／障がい者雇用
心と体の健康支援／安全衛生マネジメント

P.19

【TOPICS】子ども参観日の開催

【TOPICS】働きやすい職場へオフィスをリニューアル

【TOPICS】健康経営の継続的推進- ホワイト500に5年連続認定

【TOPICS】「危険物の断捨離」を実施



公正な事業慣行

調達方針／サプライチェーンでのサステナビリティ推進／紛争鉱物対応方針

P.24

CSR重点課題以外の取り組み

組織統治

社会・地域から信頼される企業をめざして／コーポレートガバナンス／コンプライアンス／内部通報制度／
リスクマネジメント／事業継続マネジメント／情報セキュリティ・個人情報保護

P.25

【TOPICS】高度化する企業へのサイバー攻撃への対応

コミュニティへの参画

地域貢献活動／交通安全活動／その他の活動(社会福祉、青少年の育成、環境貢献)

P.27

【TOPICS】兵庫運河の藻場・干潟の保全活動

環境への取り組み（詳細）

デンソーテングループエコビジョン／エコファクトリ(生産・物流)／マネジメントシステム／環境リスク対応／
事業活動と環境側面

P.30

会社概要／事業所一覧

デンソーテングループの会社概要です。

P.38

編集方針

持続可能な社会の実現に向けた取り組みとCSRに関する情報をわかりやすく開示し、さまざまなステークホルダーの方々とのコミュニケーションを図ることを目的に、毎年発行しています。2023年版では、2022年度における重要な取り組みやトピックスを中心に、コンパクトにまとめて報告しています。

なお、編集にあたり、環境省「環境報告ガイドライン」「ISO26000：2010」などを参考にしています。

報告期間

2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）の活動を中心に報告しています。ただし、それ以外の期間の内容も一部含まれます。

報告対象組織

デンソーテングループおよびグループ各社の活動を報告しています。ただし一部に特定の範囲・拠点に限定したデータや事例を含みます。



社名「デンソーテン」の「テン」は、最高・至上を意味する「天」のことです。
中国古典の「中庸」に「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり。」という一節があり、
「誠」を企業経営の基本理念として大切にしています。

企業理念

「誠は天の道なり」 私たちは、「誠」を大切に働き、お客様・社会に貢献します。

お客様第一 品質至上

私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く商品を生み出します。

社会との共生

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

働きがい

私たちは、一人一人が誇りを持って働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合います。

デンソーテングループ企業行動宣言（サステナビリティ方針）

私たち、デンソーテンは、製品の提供を通じて人と車のより良い関係づくりに貢献し、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。この目標を実現するため、私たちは、「誠」を大切にし、「デンソーテン企業理念」に基づくこの「デンソーテングループ企業行動宣言」の実践を通じて社会的課題の解決に努め、社会の持続的な発展に貢献します。

□ お客様

お客様第一、最高の品質、期待の先を行く製品・サービス
安全性、品質の向上
個人情報の保護
適切な情報提供、誠実なコミュニケーション

□ 従業員

人権尊重
強制労働・児童労働の禁止
働きがいの実現
公正な労働条件、安全な労働環境

□ 取引先

共存共栄の実現
透明で公正な取引機会、公正な関係

□ 株主

企業価値の向上

□ 環境

環境負荷の低減

□ 社会

適切な情報開示
国際ルール、各地域のルールの順守
公権力との公正な関係
反社会勢力との関係遮断
リスク管理の徹底

□ 社会貢献

豊かな社会・地域づくりへの貢献

□ 経営トップの役割

本指針の精神の実現
実効あるガバナンスの構築

「クルマの価値向上」「生活の価値向上」「カーボンニュートラル」実現をめざし、社会課題の解決に貢献します。

当社は、創業以来、社名「デン」の由来でもある企業理念「誠は天の道なり」が示す通り、「世のため、人のため」の志を持って、社会課題の解決に貢献すべく、事業活動に取り組んでまいりました。

昨年度は、世界的な半導体需要の高まりと物価高騰、新型コロナウイルス感染症急拡大による海外部品メーカーの生産停止等を受け、部品の価格高騰や供給不足が長期化し、自動車業界をはじめとする社会全般に大きな影響をもたらしました。

一方で、今、自動車業界は交通事故死亡者低減に向けた技術開発や脱炭素社会の実現に向けた電動化へのシフトが加速するなど、モビリティ分野では生活者にいかに「安心・安全で、環境にやさしい移動」を提供できるかが重要な課題となっています。

こうした中、私たちは2020年3月に策定した「VISION2030」に掲げた「クルマの価値向上」、「生活の価値向上」に貢献する製品・サービスの提供と、「カーボンニュートラル」の実現に向けた取り組みを進めています。

昨年度は、「生活の価値向上」においては、北九州市で短距離・低速型EVの効率的な運行の実現をめざす実証実験に参画しました。「クルマの価値向上」では、ドライブレコーダーの映像から交通事故の原因となる危険シーンを高性能・高速エッジAIがリアルタイムで検出する技術などを開発しました。

「カーボンニュートラル」では、海外3拠点で再生可能エネルギーへの切替等により、工場から発生するCO₂排出量を実質ゼロにする、カーボンニュートラルを達成しました。

私たちは「会社の成長を実現しながら、社会課題の解決に貢献する」というサステナビリティ経営を推進し、SDGsの達成に貢献していきます。

昨年度は、兵庫県と神戸市より「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業」(ミモザ企業)に認定されたほか、従業員の心身両面での健康施策充実が評価され、「健康経営優良法人2023～ホワイト500～」に5年連続で認定されました。

また、従業員の個と多様化を尊重し、自由で豊かな人生と会社の持続的成長のため、リモートワークやDXを活用した生産性向上などの取り組みを推進、働き方改革を浸透・定着させることで、従業員満足度の向上につなげています。

私たちは、引き続き、社会課題の解決に果敢に挑戦し、SDGs達成に貢献することで、さらにお客様・社会から信頼される会社をめざしてまいります。

株式会社デンソーテン 代表取締役社長

米本 宜司



デンソーテングループのサステナビリティ経営

デンソーテングループは、会社の成長を実現しながら、社会課題解決に貢献し、企業価値の向上をめざす「サステナビリティ経営」を推進しています。サステナビリティ経営は、『私たちは、「誠」を大切に働き、お客様・社会に貢献します』という企業理念の実践そのものです。私たちはこれからも事業活動を通じて、社会課題の解決に貢献することで、社会から信頼される企業をめざします。

会社の成長を実現しながら社会課題解決に貢献し、 企業価値向上を目指す



VISION2030

企業
理念

「誠は天の道なり」
私たちは、「誠」を大切
にして働き、お客様・
社会に貢献します。

行動
指針

Challenge	高い「志」を抱き、果敢に挑戦する
Originality	自らの発想と勝ち技を磨き上げ、「デンならではの」を創り出す
Right	正しい仕事・丁寧な仕事を行う
Speedy	先を取る、迅速に行動する
Respect	個を尊重する、多様性を活かす

誰もが快適と自由を感じられる笑顔あふれるモビリティ社会の実現に向け、
移動の価値を創造し続けるモビリティソリューションパートナー



デンソーテングループが2030年にめざす姿・方向性や大切にしたい行動指針を描いた「VISION2030」を策定しています。

人と地球に優しい製品でクルマの魅力を高める「クルマの価値向上」を深化・発展させるとともに、移動の課題を解決し、人々の生活を豊かにすることで「生活の価値向上」にも貢献していきます。

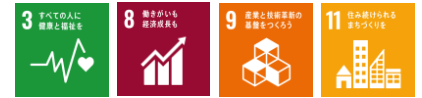
「クルマの価値向上」、「生活の価値向上」という2つの提供価値を掲げ、両輪で取り組むことでシナジーを生み出し、暮らしのあらゆるシーンで一人ひとりに寄り添い、新たな移動の価値を提供し続けます。

また、スローガンとして「移動に自由を。人に笑顔を。」を掲げ、人とモビリティと社会のインターフェースを創造するモビリティソリューションパートナーとなり、お客様・社会に貢献してまいります。

なお、これらの活動は、私たちが大切にしている「誠」の精神、およびSDGsの観点も土台とし、デンソーテングループが全社一丸となって推進してまいります。

特集 – VISION2030の実現に向けた取り組み

当社は、VISION2030で掲げる、「人とモビリティと社会のインターフェースを創造するモビリティソリューションパートナー」として、「クルマの価値向上」、「生活の価値向上」に向けた取り組みを推進しています。本特集では、誰もが快適と自由を感じられる、笑顔あふれるモビリティ社会の実現に向けた取り組みをご紹介します。



「クルマの価値向上」への取り組み -人と環境にやさしい製品でクルマの魅力を向上



自動車業界において、CASE^{*1}の領域で技術革新が進み、脱炭素社会実現に向けた動きも活発化する中で、クルマの魅力をより高める、人と環境にやさしい製品の開発に取り組んでいます。

*1 Connected, Autonomous, Sharing & Service, Electricの略称

TOPICS①

ドライブレコーダーの車載カメラ映像から交通事故の原因となる危険シーンを高性能・高速エッジAIがリアルタイムで検出する技術を開発

ドライブレコーダーの車載カメラ映像から、「信号無視」や「車線逸脱」といった交通事故の要因となる危険シーンを、走行中にリアルタイムで検出する技術を開発しました。高性能・高速エッジAIを車載器に組み込み、当社独自の画像認識アルゴリズムを活用することで、画像処理をスピーディーに行い危険シーンを抽出します。

例えば、運転中に赤信号無視や青信号での発進遅れ、自車位置と車線との距離からふらつきや車線逸脱を検出した際に、車載器からドライバーへリアルタイムに注意を促すことができます。



※カメラ画像はイメージであり、実際のサービスとは異なります。

【新技術の概要】高性能・高速エッジAIと独自の画像処理技術により危険シーンを検出

①信号検知技術

高性能・高速エッジAIにより、運転中の車から遠く離れた小さな信号機を検知することが可能です。また、図1のような交差点に直進で差しかった場合、当社独自のアルゴリズムで運転中の車から信号機までの距離と方向を算出することで、前方にある信号機Bを従うべき信号機(対象信号機)、左右にある信号機A・Cは対象外と判定します。その対象信号機を赤信号で通過した場合に信号無視と判定します。

*検出対象となる運転行動であっても状況によっては検出できない場合があります

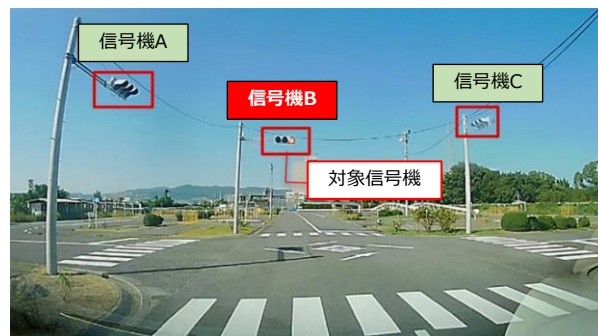


図1 エッジAIによる信号検知のイメージ

②車線検知技術

図2のように画像の濃淡から車線を検知するヒストグラム解析を行い、車線とそれ以外(路面や歩道)を分離することで、擦れた車線も高い精度で検知可能。さらに破線や二重線などの車線を検知し、図3のような車線位置(はみ出していない線)を定め、自車から車線までの距離を正確に検知することで、ふらつきや車線逸脱をより高い精度で判定します。

*検出対象となる運転行動であっても状況によっては検出できない場合があります



図2 実際に記録した映像のヒストグラム解析(車線検知)



図3 車線の種類に応じた車線位置を検知

③オートキャリブレーション

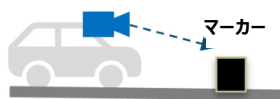
従来はカメラ取付時にマーカーを使用してカメラの角度を手動で設定していましたが、オートキャリブレーション機能が加わることで、走行中にカメラの取付角度を自動で推定し補正します。

カメラの角度が変わっても、自動で再推定されるため検知対象物までの距離を正しく測ることができ、信号検知や車線検知など危険シーンの検出精度が飛躍的に向上します。

*走行環境(天候や路面状態)によっては補正できない場合があります

従来

- ・取付時にマーカーを使って角度を推定することを一度だけ実施
- ・使用中にカメラ角度が変わると画像認識機能の精度が低下
- ・再調整が必要



本技術

- ・マーカー不要。路面模様から推定
- ・自車走行中に常にカメラの取付角度を自動で推定
- ・使用中にカメラ角度が変わっても自動で再推定
- ・再調整が不要



2023年2月9日 プレスリリース

本技術を搭載した新商品「Offseg(オフセグ)」発売

本技術を搭載した法人向け安全運転管理テレマティクスサービスの新商品「Offseg(オフセグ)」を2023年6月に発売しました。

従来の法人向けドライブレコーダーを用いた「安全運転管理テレマティクスサービス」では、車載器が衝撃を検知した際にカメラ映像をクラウドに自動送信していましたが、今回の技術が加わることで、衝撃の発生しない危険シーンでも検知することが可能となりました。

中でも、信号無視や脇見運転、居眠り運転などのシーンでは、リアルタイムでドライバーへの警告を行い、ドライバーの安全意識を高めて交通事故の抑止に貢献します。



offseg®



2023年4月13日 プレスリリース

※Offsegは、株式会社デンソーテンの登録商標です。

Voice 開発者の声

本製品はドライバーの人的事故要因の約7割を占める「12シーン」を検知することで社会課題である交通事故を未然に防ぐために開発しました。

高性能・高速エッジAIと独自の画像処理技術を車両特有の環境(雨、雪、外光など)に対応させるため、「網羅的に取得した膨大なデータ」と、「これまで培ってきた画像処理のノウハウ」を活用し、検知精度および、さまざまな道路条件下での性能を確保することができました。

今後も、AI、画像認識などを活用した技術開発を行い、安心・安全・快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。



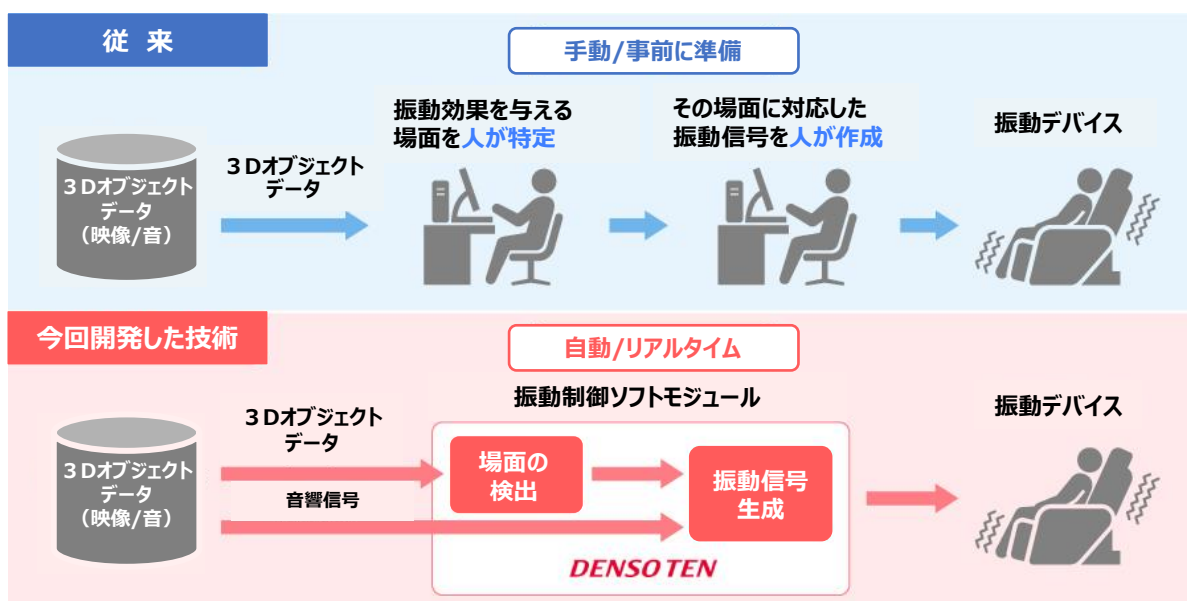
コネクティッド事業本部
先行システム開発部
垣田 直士

TOPICS②

音響信号から振動信号をリアルタイムで自動生成する技術を開発 ～車載UIとして触覚を活用し、安心・安全に貢献

映像・音響信号を含む3Dオブジェクトデータをもとに振動効果を与える場面・タイミングを自動で検出し、その場面の音響信号から、音響信号と連動した振動信号をリアルタイムで自動生成する技術を開発しました。車内のユーザーインターフェース(UI)として、椅子やシートの振動による触覚の活用を見込んでいます。

たとえば、車両に搭載したカメラやマイクから得た3Dオブジェクトデータをもとに、周囲の車両等が自車に接近した際の接近感覚を振動によって知らせたり、ナビゲーションとの連携により右左折等の進路指示を振動の方向感で提示するなどが可能となり、従来の視覚・聴覚だけでなく、触覚を利用して直感的な状況判断につなげることで、安心・安全に貢献します。



2022年4月26日 プレスリリース

Voice 開発者の声

安心・安全の実現によるクルマの価値向上に貢献するため、本開発に取り組みました。ユーザーインターフェースとして、視覚・聴覚に加え触覚である振動を活用することで、より直感的な情報提供をめざしています。

本開発により、音声聞き取りにくい人や表示が見にくい人など幅広い人が安心してクルマに乗ることができる社会の実現に貢献できると考えています。

今後は、より通知内容が分かりやすい振動や快適な振動、当社の強みを生かした音の臨場感を高める振動など、振動活用の課題解決や適用範囲の拡大につながる技術の開発を進めていきます。



イノベーション創出センター
広見 怜



「生活の価値向上」への取り組み

- コネクティッドサービス/MaaSを活用し、移動の課題を解決



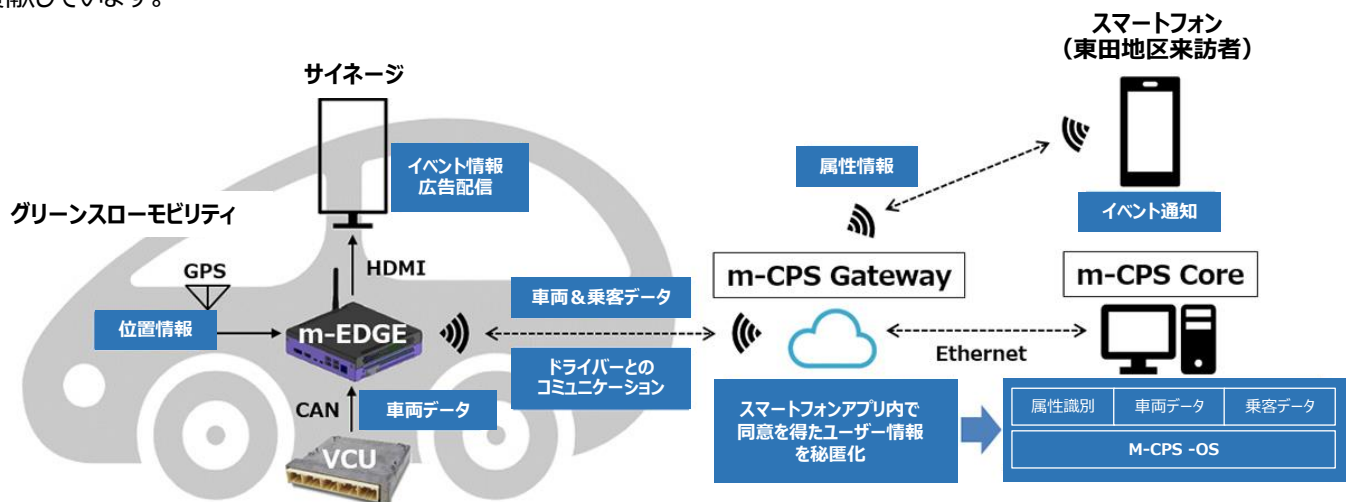
当社は、「VISION2030」で掲げる「生活の価値向上」を実現するべく、利用者や事業者に寄り添った、「実際に“移動”を提供する事業者様」の困り事を解決するサービス・ソリューションの開発・提供に取り組んでいます。

TOPICS

快適で安心なグリーンスローモビリティを活用した回遊性向上を図るMaaS実証実験に参画

2022年10月～11月に北九州市八幡東区東田エリアで開催された「近未来都市東田地域回遊モビリティ実証事業」に参画しました。当社は、東田エリアを回遊するグリーンスローモビリティ(短距離・低速型EV)に搭載する、AI・画像処理やマルチメディア制御、クラウド連携を実現する車載エッジコンピューター「m-EDGE」と、車両の電源・駆動力・ボディの統合制御を行う「VCU」*1を提供しました。

実証期間中は、グリーンスローモビリティに乗車しているお客様のデータや車両の稼働状況を当社の「m-CPS」*2 (mobility-Cyber Physical System)によりデータとして可視化し、個々に応じたイベント情報を配信しました。さらにグリーンスローモビリティを効率的に運行することで、環境に優しく東田エリアをより快適に安心して回遊いただける取り組みに貢献しています。



*1 VCU : Vehicle Control Unit

*2 m-CPS : モビリティ連携とリアルタイム性を特長とするCPS(※)。車両を含む様々な物理システムをm-EDGEを起点に接続し、仮想空間上での人流や交通流など様々な情報の予測や解析を実現します。

※CPS : Cyber Physical System:現実世界で、センサーシステムが収集した情報をサイバー空間でコンピューター技術を活用し解析



2022年10月26日 プレスリリース

Voice 開発者の声

m-CPSは人や車にフォーカスして移動に関する様々な価値あるデータを計測、予測・解析、制御することで街や人々の暮らしをより便利に、豊かにするためのしくみです。街や施設全体のデータを集約して全体最適を図ることで、誰でも、意識することなくサービスの恩恵にあずかることができるようになります。

たとえば、ちょうどいいタイミングでバスに乗ることが出来たり、バス内ではちょうど興味を引くコンテンツや広告が流れたり。これは、我が国が提唱する新たな社会(Society5.0)を実現するための取り組みでもあります。私たちは、m-CPSの開発を通じて、一人一人が快適で互いに尊重しあえる社会の実現に貢献していきます。



AE事業本部
モビリティソリューション開発部
横山 夏軌

事業領域と主な製品

当社は、安心・安全で、快適なモビリティ社会の実現のため、「Connected」「Car Infotainment」「Automotive Electronics」の3つの事業領域において、つながる機能製品、人にやさしい情報提供システム、制御系技術を活用した基幹製品等の提供に取り組んでいます。

Connected事業

[車載用通信機器]

成長領域であるコネクティッドサービス分野やMaaS分野を担い、つながる機能製品（IT/IoT技術を駆使した高度情報処理を組み込んだもの）によって安心・安全・快適なモビリティ社会の実現をめざしています。

保険契約者向け緊急通報サービス



法人向け安全運転管理テレマティクスサービス



※Offsegは、株式会社デンソーテンの登録商標です。

クラウド型タクシー配車システム



Car Infotainment事業

[車載マルチメディア機器]

車載マルチメディアシステムやディスプレイオーディオをはじめ、人にやさしい情報システムをベースに、ドライバーの安心・快適の最大化に貢献することをめざしています。

ディスプレイオーディオ



次世代サウンドシステム



ホームオーディオ



Automotive Electronics事業

[車載用電子機器]

電動化・自動運転化が進む次世代自動車向けに、制御系技術を活用した基幹製品（ECU）を提供し、カーボンニュートラルの実現と安全・安心な移動に貢献することをめざしています。

電気自動車向けECU



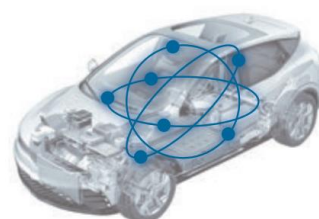
充電通信ECU



充電統合ECU



電池監視ECU



デンソーテングループのCSR

デンソーテングループは、「誠」を日々の活動において実践することで、国際社会・地域社会への貢献と、さらなる企業価値の向上をめざします。

□ デンソーテングループのCSR重点課題

さまざまな社会的課題の中から「ステークホルダーにとっての重要度」「当社にとっての重要度」の2つの軸でマッピングを行い、優先的に取り組むべき重点課題（マテリアリティ）を特定し、ステークホルダーの期待や要請に沿ったデンソーテンらしい活動を推進しています。



□ 推進体制

当社は2017年より、コーポレート部門が中心となってグループとしての一体的なCSR活動を推進してきましたが、2020年4月からは、サステナビリティの視点を経営戦略に取り込むことで、事業を通じた社会課題解決に向けた取り組みを強化するため、経営戦略本部経営企画部が全社のCSR活動を統括する体制としています。

□ SDGsへの対応

デンソーテングループは、事業活動を通じてSDGsの達成に貢献することをめざし、各部門の中期計画・年度計画でSDGsに関連するKPIを設定し、各取り組みを行っています。

また、従業員に対する啓発活動として、社内向け「SDGs特設サイト」の開設やeラーニング、社内報での情報発信などを行っています。



デンソーテングループのCSR

■ 2022年度の主な活動と関連するSDGs

CSR重点課題		22年度の主な取り組み・成果	関連するSDGs	関連ページ
消費者課題	お客様データの保護	● 「個人情報保護方針」に基づく個人情報の厳重な管理・保護（継続）	 	P.15
	お客様満足度の向上	● ISO9001およびIATF16949に基づく品質保証体制をグローバルに運用（継続） ● 品質問題ゼロに向け、徹底的に問題の本質に迫ることや作業手順の再徹底を目的とした「真因追究力強化研修」を実施（継続）		
環境	製品による環境への貢献	● 海外3拠点で、工場から発生するCO ₂ 排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを達成	 	P.17 - 18
		● デンソーテック無錫(TNWX)が中国江蘇省グリーン工場認定取得		
人権	デューデリジェンス（人権の尊重）	● 階層別の教育に加え、全従業員に対して人権に関するEラーニングを実施（継続）	 	P.19
労働慣行	人材の多様性（ダイバーシティ）	● ダイバーシティに関する情報発信の強化や情報発信サイトのコンテンツの拡充等、広く深く理解してもらう活動を実施 ● 従業員に興味を持ってもらうため、幅広いテーマでセミナーや座談会を実施したほか、「Diversity EXPO」と称してさまざまな参加型イベントを実施	  	P.19
	ワークライフバランス	● 国内3拠点で、従業員の子どもの親の職場を見学する「子ども参観日」を、3年ぶりに対面形式で実施（継続） ● 業務内容や特性に合わせて働く場所を選ぶ時代に合せ、生産性・付加価値を最大限に高められる魅力ある職場環境をめざした、オフィスのリニューアルを実施		P.20 - 21
	従業員の健康推進	● デンソーテックが「健康経営優良法人2022（大規模法人部門～ホワイト500～）」に5年連続で認定		P.22
公正な事業慣行	公正・公平な取引	● 主要な取引先を対象に「お取引先様 感謝の会」でサステナビリティに関連した方針を伝達（継続）	 	P.24

CSR重点課題以外の取り組み

組織統治	● 「コンプライアンス月間」などの機会を捉え、eラーニングや、職場における業務上のコンプライアンスリスクを網羅的に点検する取り組みを実施		P.25
コミュニティへの参画	● グループの各事業所で寄付・寄贈を中心に、バレーボール教室・植樹など地域の困りごとに寄り添った社会貢献活動を実施（継続）	   	P.27 - 29

お客様に役立つことを第一に考えます

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努めることで、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。また、お客様の個人情報、お客様の同意のもと収集し、利用目的を限定した上で厳重に管理・保護しています。



品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするため、国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点で品質向上のためのサイクルを回しています。

国際品質マネジメントシステムについては、「ISO9001」に加え、自動車産業の規格である「IATF16949」の認証を取得し、運用しています。このような取り組みの中で、「デンソーテングループ製品安全憲章」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で品質および製品安全面の確保を行っています。



IATF16949認定証

品質意識の向上・人材育成

2020年より、昨今の働き方の変化に合わせて、オンラインでの品質展示会を開催し、全従業員の品質意識の向上と品質感度の高い人材の育成を行っています。

また、仕事の質の向上を目的に、「真因追究力強化研修」を実施しています。当社の考える“真因追究”とは、問題を生み出した仕事の進め方（業務プロセス）を振り返り、やるべきだったがやれなかった作業を探し出し、その作業がやれなかった真因を追究して、確実にやれる状態を作ることを指し、そのスキルと実践力の強化を図っています。

アフターサービス対応

不具合品の修理対応

国内外の修理拠点で、「早く・安く・高品質な修理」をモットーに、最小限の部品交換による環境に優しい修理対応を行っています。

また、修理後も安心して長くお使いいただけるよう、製品の生産工場と同等の機能・性能保証が抜け漏れなく実施できる「自動検査システム」を修理拠点に配備し、高品質な修理を実現しています。



部品交換作業の様子

お客様データの管理・保護

修理の際に入手した、お客様の氏名、住所、メールアドレスなど特定の個人を識別できる個人情報に対しては、「個人情報保護方針」に基づいて厳重に管理・保護を行っています。

さらに、カーナビゲーション本体内に記憶されている個人情報に対しても、修理拠点に管理責任者を設置するなど、個人情報保護の取り組みを義務づけています。



デンソーテングループ個人情報保護方針

製品セキュリティ

車載IoT製品の増加に伴う情報漏えい、改ざん、誤動作を狙った攻撃による被害を防止するため、製品のセキュリティ対応が必要となっています。当社製品を安心してご使用いただくため、サイバー攻撃から守るための技術(暗号化等)を製品に確実に搭載するとともに、社内体制、ルールを整備、社員教育を実施するなど、製品のセキュリティ確保に取り組んでいます。

TOPICS

● 製品・サービスにおけるサイバーセキュリティ、プライバシー対応の確立

「つながる」ことで新たな付加価値を提供するためのコネクティッドサービスの重要性拡大に伴い、2022年度は、ITサービスのサイバーセキュリティ確保やプライバシー保護の開発プロセス標準・規定類整備と、人材育成に取り組みました。

2023年度は、先行する車載製品のサイバーセキュリティに続き、ITサービスのセキュリティ確保、および車載製品・ITサービスのプライバシー保護について全社の実行体制確立に取り組めます。

美しい地球を次の世代に引き継ぎます

地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、
企業活動のあらゆる領域で環境負荷低減を進めます。



第9次 環境行動計画の目標と実績

2021年度～2025年度を活動期間とした「第9次環境行動計画」の目標達成に向けて推進しています。

分野	取り組み目標	22年度	
		目標	実績
ミニマムCO ₂ モノづくり	生産におけるCO ₂ 排出量(付加価値額当り)を2025年度末までに2012年度比で30%削減する	2012年度比 ▲35%	2012年度比 ▲34%
	物流におけるCO ₂ 排出量(売上高当り)を2025年度末までに2012年度比で13%削減する	2012年度比 ▲11%	2012年度比 ▲32%
エコマテリアル&ローエミッション	製品環境負荷物質規制強化により、法規不適合をゼロにする	不適合ゼロ	不適合ゼロ
ミニマム環境負荷生産	排出物排出量(付加価値額当り)を2025年度末までに2012年度比で20%削減する	2012年度比 ▲29%	2012年度比 ▲25%
	化学物質使用量(付加価値額当り)を2025年度末までに2012年度比で52%削減する	2012年度比 ▲54%	2012年度比 ▲55%
	水資源使用量(付加価値額当り)を2025年度末までに2012年度比で52%削減する	2012年度比 ▲51%	2012年度比 ▲47%
自然共生アクション	年度計画に基づく環境活動の実施を維持する	維持率100%	維持率100%
環境価値創造のマネジメント	製品EMS・製造EMSを融合したテングループEMSの運用を維持し、環境経営を強化する	維持率100%	維持率100%
	環境リスク低減活動を通じてコンプライアンスを徹底する	法令違反・異常 0件	法令違反・異常 0件

カーボンニュートラルの推進

徹底した省エネと再エネ電力・ガスクレジットの調達による工場CO₂排出ゼロ、電動車用製品の開発や車載電子機器の軽量・省電力化、つながる技術による人とクルマの移動の削減で、2035年度にカーボンニュートラルの実現をめざします。

2022年度取り組み

- 2025年にグローバルで工場におけるカーボンニュートラルの実現をめざしています。2022年度は、海外3拠点で使用電力の再生可能エネルギーへの切り替え等により、工場から発生するCO₂排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを達成しました。
 - ・デンソーテンエスパーニャ (TNES) 2022年4月～
 - ・デンソーテンタイランド (TNTH) 2022年5月～
 - ・デンソーテン無錫 (TNWX) 2022年9月～
- 省エネに配慮した製造工程をめざして以下に取り組みました。
 - ・大電力を消費するはんだ付け装置（フローディップ）の廃止に向けた技術開発に着手
 - ・省エネ設備設計マニュアルを新たに作成し、組立・検査工程の設備開発・導入に着手。
あわせて、設備設計者への教育・啓発を実施

TOPICS

● デンソーテン無錫 (TNWX) が中国江蘇省グリーン工場認定取得

ISO 50001（エネルギーマネジメントシステム）とISO14064（温室効果ガスマネジメントシステム）の認証取得に加え、建屋屋上の63%に太陽光パネルを設置したことで中国江蘇省グリーン工場に認定されました。



➤ デンソーテングループの環境保全の取り組み詳細については、30ページ以降をご覧ください。

一人一人の「働きがい」を大切にしています

従業員一人一人の人権が尊重され、それぞれが能力を発揮しながら、誇りとやりがいを持って働ける職場づくりをめざします。また、すべての従業員に対して公正な労働条件を提供した上で、安全かつ健康的な労働環境の維持・向上に努めます。



人権の尊重

グローバル企業として、企業行動指針や企業行動宣言（サステナビリティ方針）に「人権の尊重」をうたい、「人種、皮膚の色、宗教、信条、性別、社会的身分、門地、障がい、性的指向などによる差別や人権侵害行為、強制労働や児童労働を行わないこと」を明記しています。

- 新入社員や階層ごとに人権に関する研修を実施するとともに、毎年12月の人権週間にはポスター掲示などを通じて、従業員の意識の啓発に努めています。
- 人権相談窓口ガイドラインを制定し、窓口の役割や相談者の不利益取扱いの禁止およびプライバシーの保護等を明文化し、従業員へ周知しました。

2022年度の取り組み

- 拠点毎に設置する人権相談窓口の対応力向上に向け、担当者の教育と情報交換を行いました。
- 階層別の教育に加えて、全従業員に対して年に1回人権教育を実施することとし、パワハラ、セクハラ、マタハラのケーススタディを扱ったeラーニングを実施しました。
- 「ハラスメントリスクを下げ、多様な部下の活躍を促すコミュニケーション研修」を実施しました。ハラスメントの未然防止と、ダイバーシティ推進を目的に、コミュニケーションスキルについて学ぶ内容です。（23年度までに全幹部職に対し実施予定）

多様性（ダイバーシティ）の受容

社員一人一人の多様性を受け入れ、活かすことは、「個人の成長」につながるとともに、企業の競争力強化・成長をもたらすという考えのもと、ダイバーシティ推進室が中心となって、多様性を尊重するような「企業風土の醸成」と「ワークライフバランスの推進」「個人の自立・活躍の支援」に取り組んでいます。

2022年度の取り組み

- ダイバーシティに関する情報発信の強化や情報発信サイトのコンテンツの拡充等、広く深く理解してもらう活動に取り組みました。
- より多くの従業員に興味を持ってもらうため、幅広いテーマ（障がい者、男性育児、がん治療等）でセミナーや座談会を開催しました。また、Diversity EXPOと称してさまざまな参加型イベントを実施しました。

ワークライフバランスの推進

従業員が各自のライフスタイルやライフステージに応じた働き方を実現し、家庭と仕事を両立することができるよう、さまざまな施策を展開しています。育児・介護休職制度など各種の制度を整備・充実させるとともに、その利用を促進するための情報発信や意識啓発などを行ってきました。

このような継続的な取り組みの結果として、2015年5月、当社は兵庫労働局より、「次世代育成支援対策推進法」に基づく特例認定（プラチナくるみん認定）を受けることができました。以降、1年ごとに更新し、認定を維持しています。



2022年度の取り組み

- 勤務制度が充実し、家庭事情や業務の生産性に応じて働く場所や時間を自ら選択する、在宅勤務制度・フレックス勤務制度を活用しています。
- 育児中の従業員がやりがいを持って働けるよう、育児休職者と休職前・復職前・復帰後の3回にわたり行う面談制度や、研修機会を提供しています。
- 従業員の子どもが親の職場を見学する「子ども参観日」を、神戸本社・小山製作所・トヨタ事業所の3拠点で、コロナ禍となって以降3年ぶりに、子ども達が実際に親の職場に訪れる対面形式で実施しました。
- 介護月間の期間中、介護に関する情報を複数回発信し、仕事と介護の両立のための法律や制度について紹介しました。また、介護に関するWEBセミナー（動画）や相談窓口を公開し、必要なときに情報を入手できる環境を整えています。

女性の活躍推進

女性の働きやすい職場づくりに努め、女性の採用継続、職域の拡大、仕事・育児の両立を支援する制度の整備・拡充と、制度を利用する風土の醸成などに取り組んでいます。

2022年度の取り組み

- 技能系職場で活躍する女性に対し、職場内で能力を発揮し、自身のキャリア形成を考える一歩として「ポジティブアクションセミナー」を開催しました。
- 女性活躍や多様な働き方に積極的に取り組む企業として、新たに兵庫県と神戸市の共同で創設された「ひょうご・こうべ女性活躍推進企業」(ミモザ企業)に認定されました。
- 女性の活躍推進に向けた取り組みが評価され、2016年7月、厚生労働大臣より「えるぼし」企業として認定を受けました。以降、1年ごとに更新し、認定を維持しています。



人材育成

「自らを磨き続け、さらに人材を指導・育成し続ける人づくり」をスローガンに、「自己の能力は自ら開発する」という考え方に立ち、各種教育プログラムを実施しています。2015年度からは人づくり強化の方針を掲げ、階層別研修のプログラムを充実。さらに2020年度からは「育成を軸とする経営」として、社長や役員が自ら社内研修の講師として直接社員教育を行うなど、より実践的な人材育成に注力しています。

2022年度の取り組み

- 当社の自己啓発体系である「テナアカデミー」では「専門知識（技術）」「グローバル」などの分野で講座を実施しています。
社内講師を募ってのセミナーも開催しており、22年度は役員自らが専門分野について語るセミナーを6講座開講しました。
- 技術教育では、専門分野や興味に応じて選べるよう、100以上のeラーニングプログラムを用意しています。
- 入社3年目までの若手社員を、職場ぐるみのOJTによってフォローする「職場若手育成制度」を導入しています。

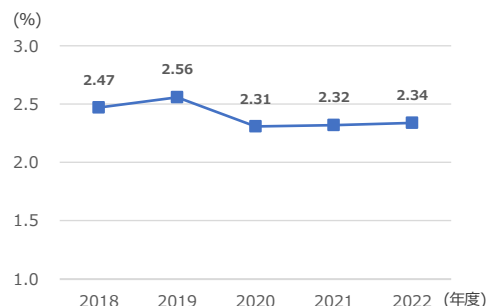


テナアカデミー「親子で学ぶプログラミング講座」の様子
※22年度は新型コロナウイルス感染症対策のためオンライン開催

障がい者雇用

当社は、就業支援機関などを通じて、障がい者の採用に取り組むとともに、働きやすい職場・職域を開拓するなど、障がい者の受け入れに積極的に取り組んでいます。雇用する障がい者の人数は昨年より3名増加し、2022年度末時点で、法定雇用率（2.3%）をクリアしています。

・ 障がい者雇用率の推移



TOPICS

● 子ども参観日の開催

家庭では見られない親の働く姿を見ることで、“働く”ということについて考え、家族とのコミュニケーションを深める機会として2006年から実施している、毎年恒例の「子ども参観日」。

3年ぶりの対面での開催に、国内3拠点合計で83名の子どもたちが参加しました。また、同日夜にはノエビアスタジアム神戸で「DENSO TEN DAY」としてJリーグヴィッセル神戸の試合が開催され、抽選で選ばれた子ども達は試合前の選手との記念撮影や試合観戦を楽しみました。



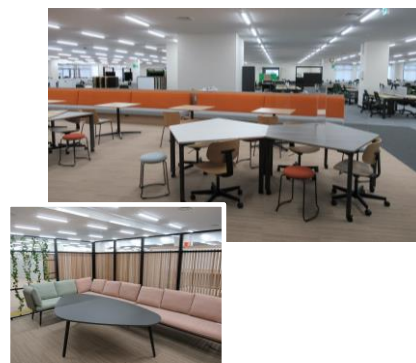
会社紹介に一生懸命聞き入る子どもたち

● 働きやすい職場へオフィスをリニューアル

コロナ禍を経て、「出社前提」から「業務内容や特性に合わせて働く場所を選ぶ」時代へと変化しています。

2022年度は、職場参画型プロジェクトを立上げ、生産性・付加価値を最大限に高められる魅力ある職場環境をめざし、本社設計開発部門のオフィスリニューアルを実施。「コミュニケーションが取りやすくなった」、「スペースが広がり、作業がしやすい」など前向きな意見が多く寄せられました。

今後も働きやすい魅力ある職場環境の整備を進めていきます。



リニューアル後のオフィス

心と体の健康支援

「従業員の健康確保は経営の基盤である」という認識のもと、従業員の健康意識を高め、心身両面にわたる自主的な健康づくりを支援しています。2014年度下期以降、支援の施策を「健診・治療」から「心身の疾病予防活動」へ軸足を移し、以降は、健康リスク保有者の低減を図るとともに、従業員の健康レベルの底上げを図るため、健康情報の発信、セミナーなどを通じた機会提供、健康度の見える化などの健康増進活動を推進しています。

2022年度取り組み

- 有所見者の低減を図るために、糖尿病に関する基礎知識・予防に向けた行動の習得化、運動・睡眠を中心とした生活習慣改善支援をWebで実施しました。（糖尿病と生活習慣の関係性、日常生活やデスクワークによる身体の疲れを改善するストレッチ、若年層対象のヘルスアップセミナーでの睡眠の知識や睡眠の質を高める方法の指導を実施）
- 女性特有の健康課題について、女性の健康に関する知識向上や女性を取り巻く健康課題に対する理解・関心を高めるため、毎年10月のピンクリボンデー、3月の女性の健康週間に合わせて、全社員を対象とした情報配信、専用の相談窓口設置、婦人科がん検診の社内実施・費用補助などを行い、女性がいいきと働くことができる職場づくりを推進しました。
- 新型コロナウイルス対策として予防啓発・感染拡大防止活動を実施しました。（職場別体調不良者の把握（毎日実施）、感染者の療養終了後の産業医による健康状況の確認・指導）

TOPICS

● 健康経営の継続的推進 – ホワイト500に5年連続認定

2022年度は、自律的な健康づくりの促進をねらいに実施している「健康チャレンジコース」（生活習慣改善に繋がる食事・運動・睡眠・ストレス解消など、約20コースから希望コースを選択、3か月間継続して実施）に、Webの指導を見ながら室内でできる運動コースの設置や食事の見直しコースを設置する等、コロナ禍の状況に応じた対応により参加者の拡大と満足度・充実度の向上を図りました。



若年層を対象とした実践型の研修

また、生活習慣スコア（健康度が見える化したもの）のフィードバックを行い、現状の各自の健康習慣の実践状況や健康データから健康課題を認識し、日々の自律した健康づくりの重要性を啓発してきました。

これらの活動の結果、2023年3月、経済産業省と日本健康会議が選定する健康経営優良法人認定制度において、「健康経営優良法人2023（大規模法人部門）～ホワイト500～」に5年連続で認定されました。



2023年3月23日 プレスリリース



2023
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

安全衛生マネジメント

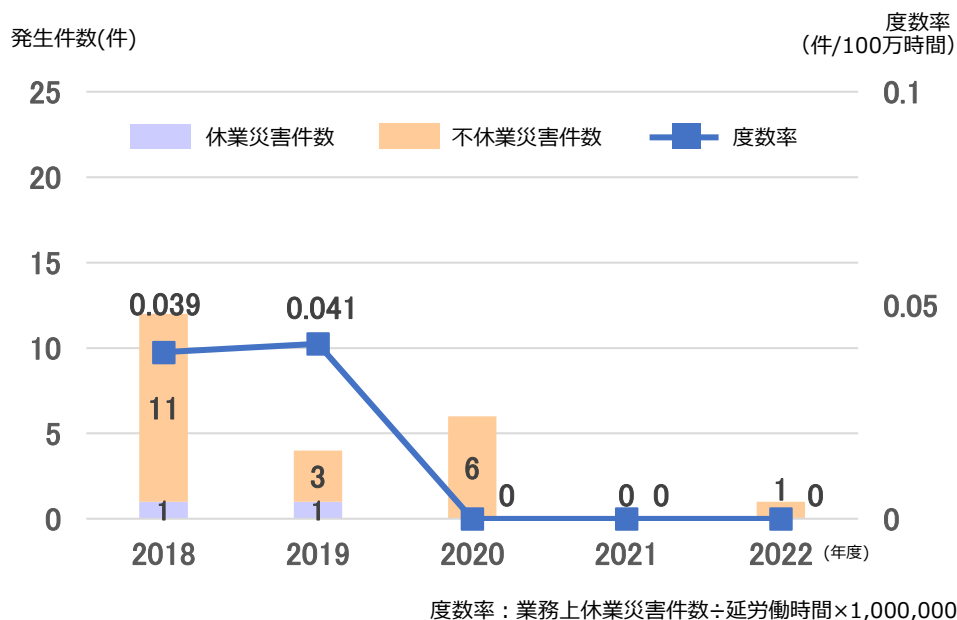
「従業員の安全と健康の確保が経営の基盤である」という基本理念のもと、労働災害の未然防止に重点を置き、安全衛生マネジメントシステムの構築・運用に取り組んでいます。安全衛生マネジメントシステムの国際規格である「ISO45001」と環境マネジメントシステム「ISO14001」とのグローバル複合認証を取得しています。

- 労働災害リスクに対して、職場ごとに危険源を抽出し、計画的に対策を実施するリスクアセスメント活動を実施しています。

2022年度の取り組み

- 職場の安全管理体制・安全マネジメント強化を図るため、①本部単位に安全管理者を配置、②職場安全活動の実態調査を従業員に対して行い、職場での安全施策の対応・浸透状況の見える化に取り組みました。
- 工場に関しては、①監督者と作業者の対話活動のレベルアップと効率化、②対話情報やヒヤリ、過去トラを有効活用できる環境整備して安全感知力の向上を図るため、タブレットを導入しDX化に取り組みました。

・労働災害発生件数・休業1日以上 の度数率（連結）



- 防火活動では、火災未然防止を図るため、国内工場において社外専門機関の第三者視点による消防リスクサーベイを受審しました。サーベイでは「建物構造」「マネジメント」「防消火設備」「ユーティリティ設備」「消火器」など幅広い分野に対して、専門的立場からの評価・アドバイスを基に防火活動の強化に取り組みました。

TOPICS

● 「危険物※の断捨離」を実施

デンソーテングループから「絶対に火災を出さない」ために、「火災リスクの低減」「延焼防止・被害最小化」の観点から、以下の3つの視点で危険物の保有量の最小化を図る「危険物の断捨離」に取り組みました。

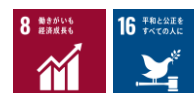
- ①不要な危険物を廃棄 ②危険度の低いものに置換 ③最小容量・ロットで購入

※製造工程で使用するイソプロピルアルコール(IPA)や、社員食堂から出る廃食用油など

オープンでフェアな事業慣行と責任ある調達活動

オープンでフェアかつ自由・適正な取引に努めるとともに、デンソーグループ内だけでなくサプライチェーンにおいてもこの方針が確実に実行されるように、責任ある調達活動に努めます。

また仕入先様をはじめとする取引先様をパートナーとして尊重し、信頼関係を築き上げて、相互発展をめざします。



調達方針「基本的な考え方」

調達方針として「オープン・ドアポリシー」「相互信頼に基づく相互発展」「環境に配慮した「グリーン調達」の推進」「“良き企業市民”を目指した現地調達の推進」「法規順守と機密保持の徹底」を掲げ、より具体化したものとして「デンソーグループ サプライヤー・サステナビリティガイドライン」を発行し、展開しています。

オープン・ドアポリシー

製品用部品・材料、生産設備等の調達に関して、国内外問わず公平・公正な姿勢で広くサプライヤーを求め調達活動を展開しています。

サプライヤー選定にあたっては、品質・技術・コスト・納期に加え継続的な改善に取り組む姿勢・体制等を総合的に勘案しています。

相互信頼に基づく相互発展

取引を通じて相互発展を図っていきたいと考えています。

そのためには、サプライヤーとの緊密なコミュニケーションにより強い信頼関係を築くことが重要であると考えています。

サプライチェーンでのサステナビリティ推進

すべてのお取引先に、「デンソーグループサステナビリティ方針」の趣旨へ同意いただくとともに、「コンプライアンス・人権擁護・環境保全・職場安全など社会的責任の順守」を盛り込んだ「取引基本契約書」の締結、および サステナビリティに関するサプライヤーでの窓口担当者の配置や方針の明確化など、サステナビリティの推進を依頼しています。

また、サステナビリティ方針を推進いただくため、さまざまな場で啓蒙・調査・点検をお願いしています。主要なお取引先には、「お取引先様 感謝の会」で、デンソーの事業方針とともに、リスク耐性強化、持続的な事業拡大など、サステナビリティに関連した方針についてもお伝えしています。

デンソーグループ紛争鉱物対応方針

デンソーグループは、人権・環境等の社会問題への影響を考慮した調達活動を推進しています。コンゴ民主共和国および周辺諸国産の紛争鉱物問題は、サプライチェーンにおける重大な社会問題の一つと認識しています。

紛争鉱物の使用状況について調査を実施し、「社会問題を引き起こす」、あるいは「武装勢力の資金源になっている」懸念のある場合には、使用回避に向け取り組みを実施します。

また、お取引先にも私たちの考えを理解いただくとともに、責任ある資源・原材料の調達活動に取り組んでいただくよう要請していきます。

「誠」を大切にして、社会的責任を果たします

トップのリーダーシップのもと、社会的責任を果たすしくみを整えるとともに、国際社会・地域社会から信頼される企業にふさわしい組織文化を育みます。



社会・地域から信頼される企業をめざして

従業員のあるべき行動を示した「グループ企業行動指針」を定め、ステークホルダーの皆様に対する責任と、企業グループとしてのあるべき姿を宣言する「グループ企業行動宣言（サステナビリティ方針）」を策定し、運用しています。



デンソーグループ企業行動宣言（サステナビリティ方針）

コーポレートガバナンス

会社の機関として株主総会、取締役会、監査役、会計監査人を設置しています。また、経営層をスリム化して意思決定のスピードを上げるとともに、優秀な人材を柔軟に最適配置して業務執行のスピードを上げるための役員制度を採用しています。

取締役を株主およびグループ全体の立場に立った経営監督機能に集中させ、取締役会のスリム化と取締役会での議論の活発化・意思決定の迅速化を図るとともに、全社の経営課題の解決と業務執行にあたる経営役員を取締役会にて選任することとしています。

また、これら役員のほか、現場のトップ・重要プロジェクトのリーダであり、担当分野における執行責任、権限を行使する役割として執行職を取締役会にて選任することとしています。

コンプライアンス

事業活動に関わる法規制などを明確化するとともに、社内ルール、教育プログラム、監視体制を整備し、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

2022年度の取り組み

- 日本の製造業で様々なコンプライアンス問題が発生している現状を踏まえ、コンプライアンス意識の徹底を図る「コンプライアンス月間」を設定しています。コンプライアンスを自分事として捉え、自らの行動を振り返ることを主眼として、他社事例から業務に潜むリスクを学び感度を高めるためのeラーニングや、職場における業務上のコンプライアンス・リスクを網羅的に点検する取り組みなどを実施しました。このほか、入社時教育において身の回りのコンプライアンス・リスクをテーマとしたグループワーキングの実施や、下請法の教育、独占禁止法の教育などを継続実施しました。

内部通報制度

国内グループ会社の従業員向けに、内部通報・相談を受け付ける「コンプライアンスライン」を設置し、お取引先にも開放しています。寄せられる通報・相談は、問題の早期発見・解決に役立っています。

リスクマネジメント

企業価値向上のため、コンプライアンス違反を含むさまざまなリスクについて、未然防止および被害の最小化に取り組んでいます。

- リスク・コンプライアンス委員会が中心となり、各リスクの責任部署とともに、潜在リスクの抽出や評価、未然防止策の検討、実行状況の確認など、リスクコントロール活動を推進しています。
- 従業員への啓発活動として、入社時教育、階層別教育などで、未然防止活動の重要性やリスク発生時の行動・心得などを教育しています。

事業継続マネジメント

事業継続計画とともに、南海トラフ巨大地震に備え、神戸本社地区を中心に防災計画を整備しています。また、災害発生時に方針・方策を決定する災害中央対策本部などの復旧支援体制を整備し事業継続マネジメントの強化を図っています。

情報セキュリティ・個人情報保護

情報漏えいなどのリスクの高まりに対応し、内部監査や全社員を対象とした教育など、情報セキュリティの強化に努めています。万が一セキュリティ事故が発生した場合に備え、被害を最小に留める為に、報告・対応の体制を作り、事故原因の究明および事故解決・復旧・再発防止に取り組んでいます。

また、特定の個人を識別できる情報（個人情報）を適切に取り扱うことを、企業としての社会的責務であると深く認識し、個人情報の管理・取得・利用・第三者への開示・提供などの場面に関して個人情報を保護します。

TOPICS

● 高度化する企業へのサイバー攻撃への対応

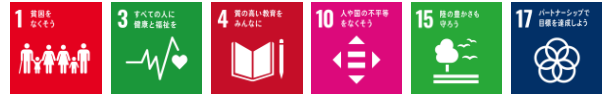
2022年度は、情報漏えい対策としてファイルアクセス権を強化するとともに、標的型攻撃メールに対応するため、メールセキュリティ対策も強化しました。また、役員を含む全従業員に対するセキュリティ教育、啓発を継続的に実施し、リテラシー向上を図っています。

2023年度は、デンソーグループとのコミュニケーションシステム等の統合に向けた準備を進め、デンソーグループとしてのセキュリティ対策強化を図っていきます。

また並行して、事務所エリアだけではなく、製造現場のセキュリティを強化する施策も実施していきます。

より豊かな社会・地域づくりに向けて

「私たちは、社会の一員である」という自覚のもと、企業活動を通じて、より豊かな社会・地域づくりに貢献します。



デンソーテングループは、地域の困りごとの解決に貢献するため、各国でさまざまな活動を行っています。

地域貢献活動



小学校にトヨタ・モビリティ基金より提供頂いた「交通安全ドリル」を寄贈（本社・中津川製作所・小山製作所）



近隣の中学校にSDGs すごろくを寄贈（本社）



貧困地域援助のため貧困地域で穫れたリンゴを購入し、従業員に配布（電装天電子(無錫)有限公司/中国）



交通安全活動



『交通安全』のぼり旗（30枚）を中津川地区交通安全協会苗木支部に寄贈（中津川製作所）



春の交通安全セレモニーに協賛（本社）

その他の活動（社会福祉、青少年の育成、環境貢献）



小山市保健福祉部福祉課へ「フライングディスクセット」を寄贈（小山製作所）



音楽療法などを積極的に行っている福祉施設へハンドベルや打楽器などを寄贈（本社）



「児童の日」に近隣の知的障がいを持つ子どもたちとゲームで交流（電装天電子(無錫)有限公司/中国）



無錫職業技術学院のIoT技術学院で電子通信技術を学ぶ学生64名に奨学金表彰を実施（電装天電子(無錫)有限公司/中国）



岩手県、福島県にて復興支援バレーボール教室を開催（本社）



高速道路入口の防疫所でコロナ検温ボランティアに参加（電装天電子(無錫)有限公司/中国）



世界湿地の日を記念してマングローブを植樹（デンソーテン ソリューションズ フィリピン）



森林再生キャンペーンに参加（デンソーテン エスパーニャ）

TOPICS

● 兵庫運河の藻場・干潟の保全活動

これまでは、地域の困りごとに寄り添い、寄付・寄贈を中心とした社会貢献活動を実施してきましたが、今後は「デンソーだからこそできる活動」にしていくため、デンソーグループ大義(安心・環境)および音に即した社会貢献活動へシフトしていきます。

環境貢献の一例として、2022年度は、神戸本社に隣接する兵庫運河の藻場・干潟の保全活動（アマモ植樹等）に賛同、Jブルークレジット※を購入することで活動を支援しました。2023年度からは、アマモ植樹のボランティアに従業員が参加するなど、活動をより強化していきます。



兵庫運河の藻場・干潟

※ Jブルークレジット:

海草藻場などの海洋・沿岸生態系によるCO₂吸収量を増加させる活動で実現したCO₂吸収量のうち、Jブルークレジット審査認証委員会が認証したもの。クレジットを購入することで、活動実施者の活動資金確保や活動活性化につながる事が期待されている

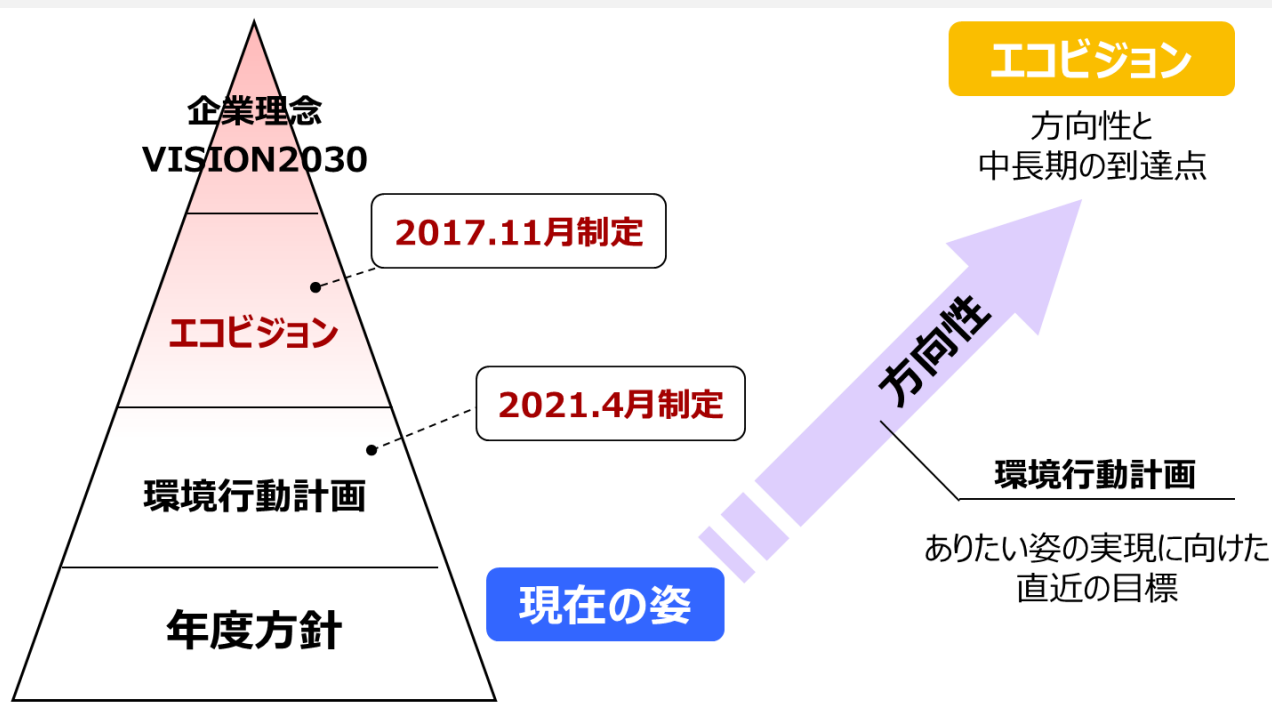
環境への取り組み

デンソーテングループの環境保全の取り組みについて、紹介します

企業活動のあらゆる領域で、環境負荷低減をめざして

デンソーテングループは、企業理念に「私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します」を掲げ、環境経営を積極的に推進しています。

2017年11月には、デンソーグループの一員としてベクトルを合わせ一体感を持った活動を推進するため、新たに「デンソーテングループエコビジョン」を策定しました。また、2021年4月には、エコビジョンの実現に向けた、具体的な目標を「環境行動計画」として策定し、活動を推進しています。



デンソーテングループ エコビジョン

I.コミットメント（～2050年）

デンソーテングループは、環境と経済の両立が経営の重要課題と認識し、全ての企業行動を通じて、環境・エネルギー問題の解決と自然との共生を図り、人と車と環境のよりよい関係づくりを推進します。また社会が直面する重要環境課題に果敢に挑戦し持続可能な地域・社会に向けた、新たな環境価値を創造し、地球を守り、次世代に明るい未来を届けます。

コミット2050：温室効果ガスの人為的な排出と吸収のバランスを達成する（ゼロエミッション）

II.環境方針（～2025年）

グローバルに構築した環境マネジメントシステムの枠組みを通じて、デンソーグループのエコビジョンを環境行動計画に反映し推進します。

ターゲット3	基本方針	コミット2025
エネルギー1/2	地球温暖化やエネルギー・資源問題を解決する技術で、地球環境の永続的な維持に貢献します。	・車のCO₂半減に貢献 ・工場のエネルギーハーフを推進
クリーン×2	全てのステークホルダーの皆様に安心して頂けるよう順法はもとより、継続的改善を進め社会と共に成長する企業であり続けます。	・有害化学物質の影響や排出物・廃棄物・水使用量の半減を推進 ・自動車の排出ガス低減技術の開発
グリーン×2	豊かな自然を次世代に引き継ぐため、自然との共生を目指した企業活動を通して、自然の叡知・恩恵を分かち合う社会を実現します。	・環境に貢献する事業の推進・製品開発 ・緑化の推進

カテゴリ	具体的な取り組み内容
エコプロダクツ (事業・製品領域)	・車の燃費向上に寄与する環境貢献事業・技術開発、ならびに製品環境配慮設計を推進します。 ・サプライチェーンを通じて製品の含有化学物質管理を徹底するとともに、グローバルな規制動向を早期に把握し、規制物質の自主的な切替対応を推進します。
エコファクトリ (工場・物流領域)	・脱炭素社会実現に向けたエネルギー効率の向上、地球温暖化対策を推進します。 ・循環型社会への貢献に向け、3R（Reduce/Reuse/Recycle）徹底により、排出物削減、リサイクル率の向上に努めます。 ・各国各地域の水環境事情を考慮した水使用量削減活動等を推進します。 ・有害物質の環境リスク低減と使用削減対策を推進します。 ・生産の上下流におけるグリーン物流を推進します。
エコフレンドリー (人&くらし)	・社員一人ひとりが「地球環境の維持」にこだわり、使命をもって持続可能な社会を目指した行動を自ら実践していけるよう、環境教育を充実します。 ・家庭でも節電やエコドライブにつとめエネルギー使用を削減します。 ・生物多様性保全の活動を含めた地域・社会への環境貢献活動を推進します。
エコマネジメント (しくみ・情報発信)	・環境マネジメントシステムを継続的に改善し、マネジメント手法のブラッシュアップに努めるとともに、環境経営の基盤強化ならびに環境価値創造に努めます。 ・環境リスクをミニマム化し、あらゆるステークホルダーへの積極的な情報発信を行います。

エコファクトリ（生産）

環境配慮型の製作所・オフィスを実現するため、すべての拠点で本業に根ざした取り組みを推進しています。

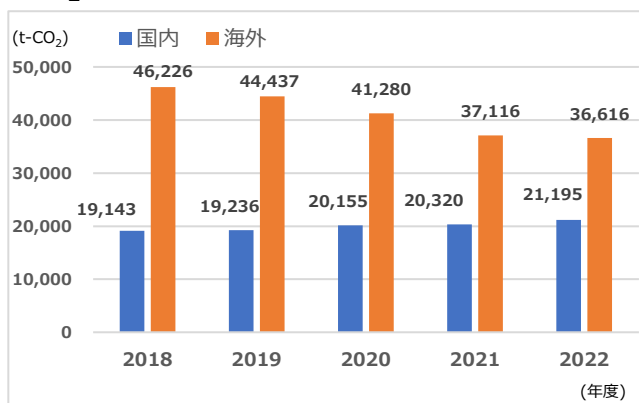
地球温暖化対策

カーボンニュートラルの実現をめざし、省エネ設備の導入や節電などの省エネ活動、生産や業務の効率化を継続的に行い、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

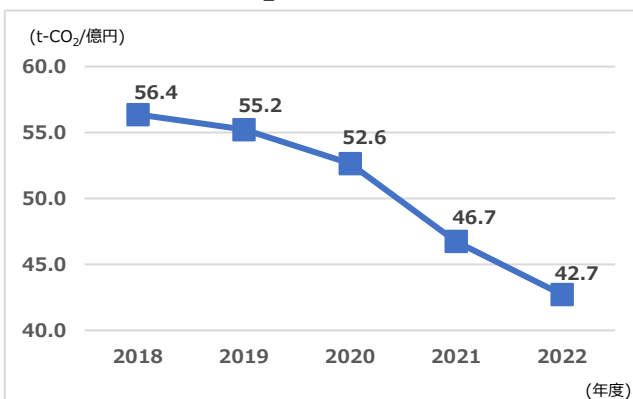
2022年度の活動結果

グローバルでのCO₂原単位は、「2012年度比▲35%目標に対し、実績▲34%」となりました。

・CO₂排出量の推移



・付加価値額当りのCO₂排出量原単位の推移



排出物対策

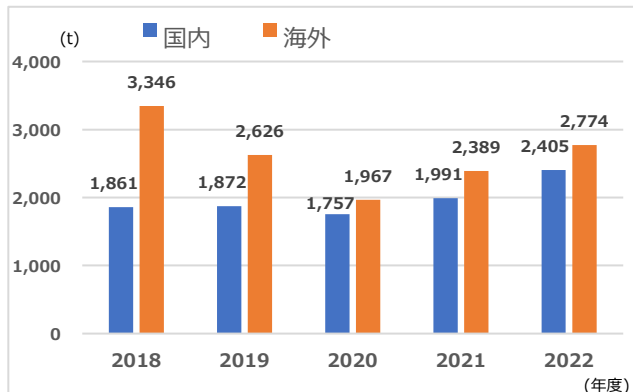
資源循環型社会を見据え、3R（Reduce：発生抑制、Reuse：再使用、Recycle：再利用）を基本に、排出物の減量化、ゼロエミッション*に取り組んでいます。

* デンソーグループの「ゼロエミッション」の定義：拠点から排出される排出物の発生抑制、再使用、再利用の3Rにより、焼却や埋め立て処分など有効利用されない廃棄物をゼロにする

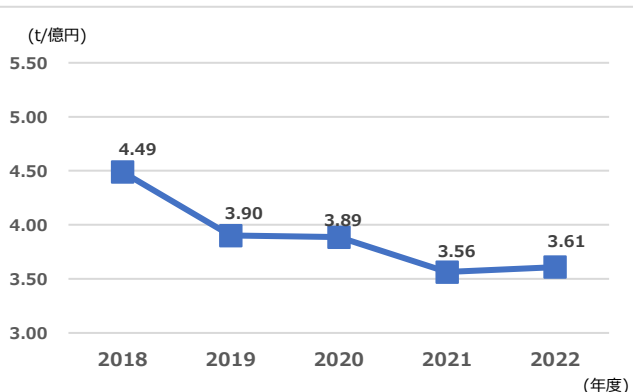
2022年度の活動結果

グローバルでの排出物原単位は、「2012年度比▲29%目標に対し、実績▲25%」となりました。

・排出物排出量の推移



・付加価値額当りの排出物原単位の推移



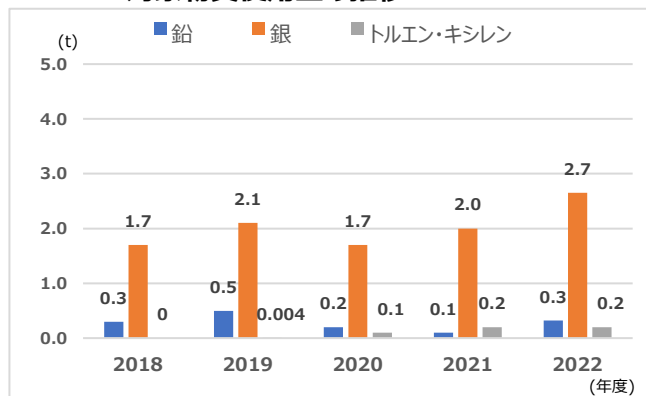
有害物質対策

国内・海外の拠点で使用するすべての化学製品について、化学物質アセスメントを実施し、環境リスクの高い化学製品を特定して、その使用を低減する活動を行っています。

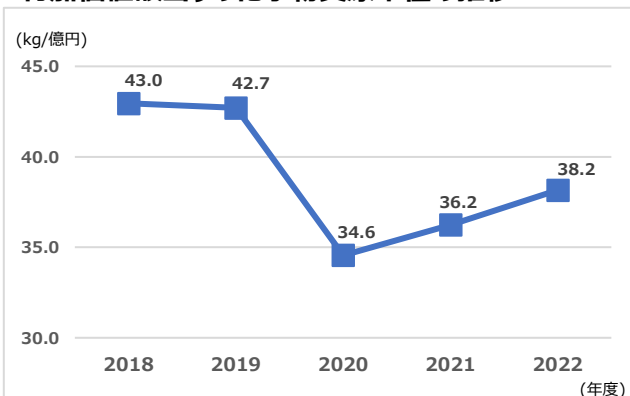
2022年度の活動結果

- グローバルでの化学物質（PRTR, VOC）原単位は、「2012年度比▲54%目標に対し、実績▲55%」となりました。

・PRTR対象物質使用量の推移



・付加価値額当りの化学物質原単位の推移



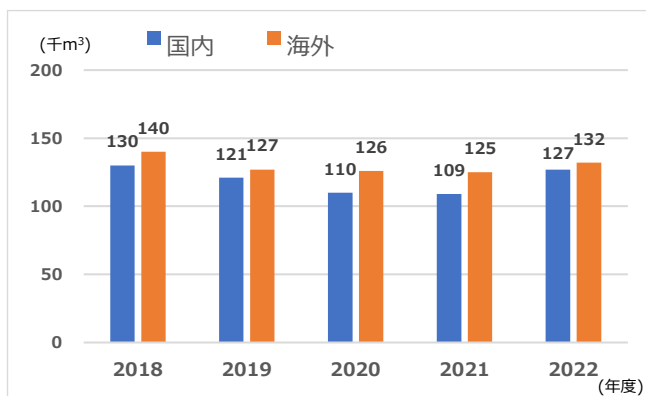
水資源対策

水は限りある資源であるという認識のもと、製作所・オフィスで使用する生活用水（手洗い・トイレ・社員食堂などで使用する水）の削減に努めています。

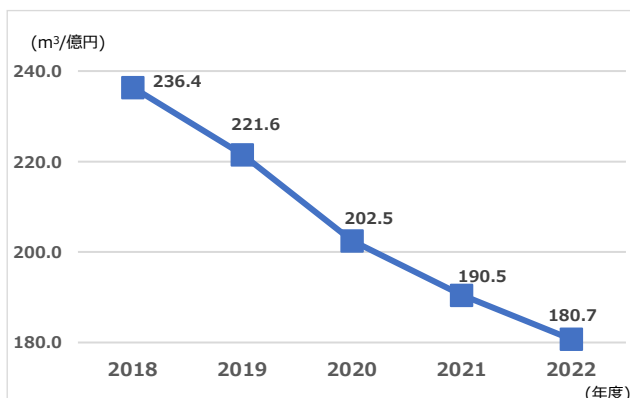
2022年度の活動結果

- グローバルでの水資源原単位は、「2012年度比▲51%目標に対し、実績▲47%」となりました。

・水資源使用量の推移



・付加価値額当りの水資源原単位の推移



エコファクトリ（物流）

地球温暖化防止のためには自社のみならずサプライチェーン全体で活動する必要があるという認識のもと、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

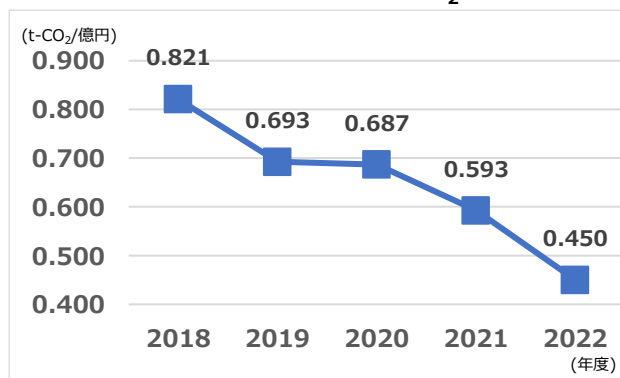
物流改善による温暖化対策

地球温暖化防止に貢献するため、輸送におけるCO₂排出量の削減をめざして、輸送ルートや荷姿の改善および貨物の積載改善に取り組んでいます。

2022年度の活動結果

中津川～豊田間の定期運行便について、積載効率化により運行便数を半減(12→6便)し、売上高当りのCO₂排出量を、2012年度比で31.7%削減することができました。

・物流改善における売上高当りの輸送CO₂排出量の推移



※数値は国内発生分の輸送CO₂排出量と単独売上高により算出しています。

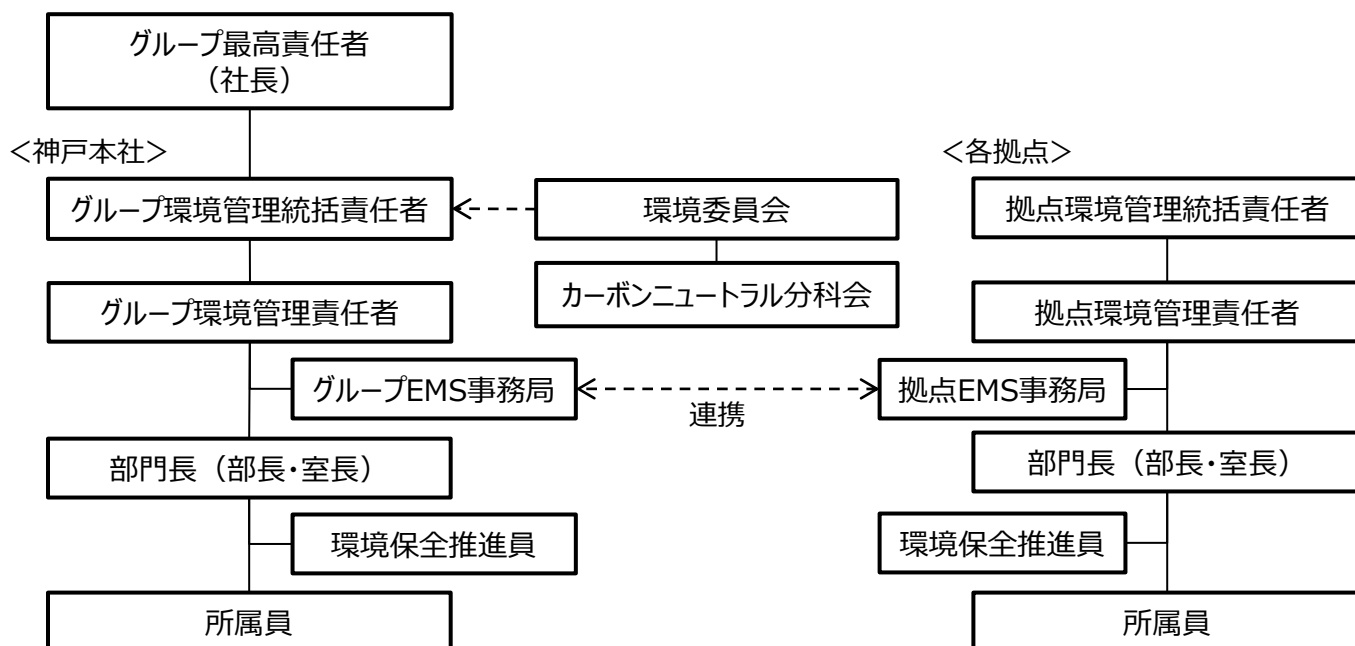
マネジメントシステム

地球規模での環境保全の必要性を強く認識した上で、組織・体制の強化と環境マネジメントシステム（EMS）の継続的な改善に努め、グループ一丸となって環境経営を推進しています。

推進体制

神戸本社にグループの環境保全活動の維持向上を目的とした管理体制を構築し、活動を推進しています。また、ISO14001グローバル統合認証を取得し、グループ全拠点で環境活動を推進しています。

グループの環境管理に関する諮問機関として環境委員会を設置し、環境経営課題の審議・決定を行っています。なお、社会の環境変動を考慮し、環境委員会の下部組織として、カーボンニュートラル分科会を設置し、全社のカーボンニュートラルを推進しています。



ISO14001認証取得状況

1997年に国内全生産拠点での認証取得を完了し、その後、2006年に海外全生産拠点でも認証取得を完了しており、2009年には日本でも有数の早さでグローバル統合認証を取得しました。

そして、2017年2月19日、本社およびグループの国内・海外など25社58拠点を対象として、環境マネジメントシステムISO14001の改定規格であるISO14001：2015においてカーエレクトロニクス業界初となるグローバル統合認証を取得しました。

環境教育

従業員一人一人の環境意識を高め、全員参加による環境活動を継続して行うため、「階層別教育」「一般教育」「特別教育」「カーボンニュートラル」などの教育・啓蒙を実施しています。

環境保全推進員および内部監査者の養成教育修了後には理解度テストを実施し、力量レベルの維持を図っているほか、海外拠点においてもグループ共通の教育を実施しています。

さらに、より拡大・複雑化する製品の環境法規制に確実な対応をするため、作業者を特定した「有意作業者教育」を実施しています。

環境リスク対応

環境汚染や生態系破壊のリスクを最小化するため、法規制値より厳しい自主管理値を設けるなどの取り組みをしています。

環境法規制の順守状況

全生産拠点で、水質・大気・騒音・振動に関する法規制値より厳しい自主管理値を設け、定期的な監視を行っています。2022年度に不具合の発生はありませんでした。

環境関連の緊急事態・苦情・事故・訴訟

2022年度に環境関連の緊急事態の発生および苦情・事故・訴訟・罰金の科料はありませんでした。

土壌・地下水汚染対策（日本）

「土壌等管理細則」に基づき土壌・地下水を計画的に調査し、汚染が発見された場合は、所定の報告と措置を実施しています。

過去に土壌汚染を認識した上で購入した用地については、神戸市により健康被害がない「形質変更時届出区域」として登録されており、継続的に地下水のモニタリングを実施しています。2014年7月と2018年3月に新たに基準値を超える土壌汚染が確認された土地については、地下水汚染が検出されなかったため、盛土およびアスファルト舗装を行い健康被害が発生しないよう対策を完了しています。これら汚染が確認された土地については、今後も行政と相談しながら定期的にモニタリングを行い結果を開示していきます。

PCBの状況（日本）

本社の使用済トランスなどに低濃度PCBが確認されていますが、法規制に従い厳重に保管・管理しています。

事業活動と環境側面

デンソーテングループの製品および事業活動は、さまざまな形で環境負荷を与えています。
私たちは、今後もグループ一丸となった環境経営を進め、あらゆる段階で環境負荷低減を図ります。

INPUT

エネルギー

電力	87,921 Mwh
重油	0 KL
都市ガス	395 千m ³
LPガス	990 t
天然ガス	16 千m ³
灯油	3 KL
軽油	11 KL
ガソリン	19 KL
自社発電	▲2,623 Mwh

森林資源

用紙	27 t
----	------

水資源

上水	138,432 m ³
工業用水	91,925 m ³
地下水	19,409 m ³

その他・部品 原材料・包装材

ダンボール紙容器	440 t
プラスチック容器	10 t

OUTPUT

CO₂

CO ₂ 排出量	57,811 t-CO ₂
---------------------	--------------------------

排出物

総発生量	4,667 t
再資源化量	4,513 t
有価物量	2,615 t
再資源化率	97 %

化学物質

PRTR排出量（日本）	0.8 t
PRTR移動量（日本）	0.2 t
IPA排出量	50 t

水

排水量	155,140 m ³
-----	------------------------

会社概要/事業所一覧

■会社概要

社名 株式会社デンソーテン
所在地 本社
〒652-8510
神戸市兵庫区御所通1-2-28
TEL 078-671-5081
代表者 代表取締役社長 米本 宜司
設立 1972年10月25日
資本金 53億円
株主 株式会社デンソー
トヨタ自動車株式会社
富士通株式会社

主な事業

■コネクティッド事業
安全運転管理テレマティクスサービス(通信型ドライブレコーダー)
緊急通報システムなど

■CI事業
ディスプレイオーディオ、カーナビゲーション、CDチューナーなど

■AE事業
エンジン制御ECU、電気自動車向けECU、ハイブリッド車用ECUなど

■事業所一覧

国内拠点

株式会社デンソーテン 株式会社デンソーテンテクノセプタ 株式会社デンソーテンスタッフ

海外拠点

アジア/オセアニア

フィリピン DENSO TEN PHILIPPINES CORPORATION
DENSO TEN SOLUTIONS PHILIPPINES, CORPORATION

タイ DENSO TEN (THAILAND) Limited

インド DENSO TEN UNO MINDA INDIA PRIVATE LIMITED
UNO MINDA D-TEN INDIA PRIVATE LIMITED

中国 電装天（中国）投資有限公司
電装天電子（無錫）有限公司
電装天精密電子（天津）有限公司
電装天国際貿易（天津）有限公司
電装天研究開発（天津）有限公司

ヨーロッパ

スペイン DENSO TEN ESPAÑA, S.A.

米州

アメリカ DENSO TEN AMERICA Limited
DENSO TEN TECHNOSEPTA USA, Limited

メキシコ DENSO TEN MEXICO, S.A. DE C.V.

株式会社デンソーテン

〒652-8510 神戸市兵庫区御所通 1-2-28

発行部門：経営戦略本部 経営企画部

サステナビリティに関するご意見・ご感想は、下記お問い合わせフォームまでお寄せください
[お問い合わせフォーム](#)

発行：2023年10月
次回発行予定：2024年9月

将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、デンソーテングループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。

したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがありますが、デンソーテングループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。